

全国中学ビブリオバトル決勝大会の特集記事です。

3月27日付け「並木ドリーム第419号」で紹介した「第2回全国中学ビブリオバトル決勝大会」(活字文化推進会議主催、読売新聞社主管)の特集記事が、読売新聞(2019年4月25日付け26面)に掲載されましたので、紹介させていただきます。

準グランドチャンプ本(準優勝)に輝いた、現3年次の佐藤桃花さんの記事を読むとともに、ぜひ下のQRコードを使ってYouTubeに掲載されている大会動画をご覧ください。佐藤さんの登場は1時間01分からです。ビブリオバトルでは、本の紹介5分間ののち、質疑応答を3分間受けます。佐藤さんのプレゼンは、ドキドキする構成で抜群でした。身振り手振りも素晴らしく、「話す力」が身につけているなと思いました(〇〇)！

本校では、国語の授業でビブリオバトルを実施しています。ぜひ、このYouTube動画を参考にしてください。さらに、本をたくさん読む若者になって欲しいと思います！！



準優勝 佐藤桃花さん

「神様の裏の顔」(藤崎翔著)

質疑応答でゲストの森本貴作家(森本貴著)が真っ先に手を上げ、「面白そう」と声をあげたのが、準グランドチャンプ本「神様の裏の顔」(藤崎翔著、KADOKAWA)。(茨城県立並木中等教育学校2年の佐藤桃花さんが紹介した。「ミス터리、コメディ、サイコメトリー、様々なジャンル

思わぬ展開 元校長の本性は

神様の裏の顔が詰まっていた、小気味のいいテンポでストーリーが進んでいきます」と佐藤さん。神様のような人と暮らした元校長のお通夜に集まった参列者たちの間で浮上した「実は元校長が凶悪な犯罪者だったのでは」という疑惑。「ラストに2回とんでん返しが待っています。あらこちらに張り巡らされた

QRコードで決勝戦、表彰式、森さんらのトークセッションの模様を見ることができます。



■2019年4月25日付け「読売新聞」26面より

全国中学ビブリオバトル決勝

中学生のお薦め本日本一を決める「第2回全国中学ビブリオバトル決勝大会」が3月24日、東京のよみうり大手町ホールであった。個性豊かなプレゼンテーションを繰り広げる中学生バトルに、会場を埋めた観戦客は盛んに質問をぶつけ、白熱の書評ライブが繰り広げられた。観戦客による投票の結果、グランドチャンプ本に、東京都立三鷹中等教育学校3年の横田青夢君が紹介した「昆虫はすごい」(丸山宗利著、光文社)が選ばれた。(学校 学年は3月現在)

54人が熱戦

大会には、秋田、福島、山梨、大阪、和歌山、徳島、大分の府県大会優勝者、首都圏や静岡、佐賀、長崎、愛知、京都の学校代表計54人が出場した。まず4会場に分かれて予選を行い、準決勝進出者を決めた。府県大会優勝者は「シード」され、準決勝からの登場となった。春休み中とあって、会場には小中学生の姿が目立った。「自分で話す長い5分がビブリオバトルだと短く感じられる」「聴いているだけで自分のレベルも上がりそうな気がした」といった感想が聞かれた。